

機能要件に対する実現方法

下表の機能要件について、「実現方法」欄に以下のa～eのうちから選択してください。  
 実現方法にb、c、dを選択した場合は、記載欄に具体的な予定や説明等を記入してください。

- a 現在パッケージの標準機能で対応可能な場合。
- b オプション機能またはアドオン機能により対応が可能であり、システム機能として取り込む場合。
- c 代替機能を提案して実現できる場合。
- d 現在パッケージの標準機能には含まれず、追加カスタマイズで対応が可能。
- e 提案するパッケージでは対応できない場合。

(副本には記入不要)

住所:  
 商号又は名称:  
 代表者職氏名:

印

※「★」印がついた項目は必須項目です。必須項目の実現方法が「e」の場合は失格となります。  
 ※「★★」印がついた項目は必須項目かつ機能証明資料が必要です。画面コピーまたはパンフレット等の資料を添付してください。  
 ※実現方法にa～e以外を記載した場合は、eが記載されたものとみなします。  
 ※実現方法にb、c、dを記載した場合で、記載欄に具体的な予定や説明の添付がされていない場合は、eが記載されたものとみなします。  
 ※「★★」印がついた項目に機能証明資料の添付がない場合は、eが記載されたものとみなします。

機能要件		実現方法	記載欄
1 全般			
(1)全般			
1	★ システムの形態はSaaS等ではなく、オンプレミスで所有できること。		
2	★ システムを操作する職員にIDを与えることで業務の実行権限や動作条件などの設定ができること。操作者の権限によって利用できる業務の範囲を変更できること。操作者の切り替えが容易であり、特に窓口業務はワンタッチで操作者切替処理が行えること。操作者を切り替える際は、IDとパスワードで認証を行うこと。ログインする職員に対して端末の設置館・場所を割当できること。		
3	★ ウイルスソフト等でコンピュータウイルスや不正アクセスへの対策ができること。Windowsサーバ及び端末に導入するウイルス対策ソフトは本市が用意するトレンドマイクロ社ウイルスバスターを使用すること。Windows以外のOSを使用する場合は受託者にて甲音すること。		
4	★ 現在使用している資料バーコード、利用者バーコード、ICタグをそのまま利用できること。		
5	★ 利用者番号や資料番号、ISBNなどはバーコードの読み取りだけでなくキーボード入力での処理も行えること。		
6	★ データの更新を行う場合にシステム負荷を考慮して他業務のレスポンスに影響を与えないよう配慮されていること。		
7	★ データバックアップや日次処理・月次処理などは職員の勤務時間に関わらず、自動運転であること。また、サーバの監視を実施し、処理した結果、正常にシステムが使用できるかを確認すること。		
8	★ 地域館、関連施設も含めたカレンダー管理(休館日、貸出期限、予約取置き期限、貸出停止開始日数等)が一括・各館毎どちらでも容易にできること。		
9	★ 画面の切り替え頻度が高い業務はファンクションキーによるワンタッチ切り替えとマウスによる切り替えが可能なこと。		
10	★ 複数業務の同時起動が可能で、現在の作業をキャンセルせずに別画面を立ち上げられること。		
11	★ ICタグのエンコード処理ができること。		
12	★ ICタグを読み取って資料番号等内容確認ができること。ICタグが故障等で読み取りが出来ない場合はメッセージで通知できること。		
13	★ 国会図書館のデジタル化資料送信サービスに対応可能なこと。		
14	★ 利用者情報を、誰が操作して作成・更新したのか確認できること。		
15	★ メニュー画面に予約回送メッセージをわかりやすく表示できること。		
16	★ 処理に異常があった場合などのメッセージやアラーム音はそれぞれ変更できること。		
17	★ 端末の起動時に図書館システムの設定情報やコード情報等が最新の状態かを確認すること。古い場合は図書館システムを起動した時点で最新の状態にできること。		
18	★ 外部からアクセスする公開用サーバに個人情報を格納しない仕組みであること。		
19	★ 公開用サーバと業務用サーバ間では、更新された情報が遅滞なく各サーバに反映されること。		
20	★ 利用者氏名等、久留米市で作成した外字フォントに対応できること。		
21	★ 利用者氏名等で使用される人名用漢字の異体字に対応できること。		
22	★ 城島図書館、三瀬図書館で貼付しているICタグについて、バーコードの張替等を行うことなく、継続して利用できること。また、IC自動貸出やIC蔵書点検も利用できること。 ※城島図書館は資料コード10桁、三瀬図書館は資料コード9桁で運用しているが、城島図書館の資料コードの先頭1桁目の「0」を除くと、三瀬図書館の資料コード9桁と一致する資料が多数存在する。ICタグのエンコードは、日協協フォーマットのため、ICタグ上の資料コードでは、両館の資料が区別できない場合がある。		
23	★ プリンターのトナーはランニングコストが安いものであること。またリサイクルトナーの使用が可能であること。		
24	★ カウンターに設置する端末(自動貸出機、館内OPACも含む)にのぞき見防止フィルターを設置すること。		
25	★ レシートプリンターは現行のレシートが使用可能であること。		
26	★ 全端末がネットワークに接続された記憶装置を使用可能であること。また、現在保存しているデータを移行させること。		
27	★★ 利用カード番号や資料番号を読み込んだ時に、未登録だった場合や状態が利用禁止だった場合など、通常の状態でない場合は、メッセージやアラーム音で通知できること。		
28	★ サーバのダウンや回線障害、メンテナンスなどにより処理ができない場合は、オフラインの端末またはハンディ端末で貸出、返却に対応できること。復旧後にサーバへの一括更新ができること。		
(2)検索機能全般(資料検索・利用検索)			
1	★ 検索条件を入力後、ボタンまたはキー押下で実行されること。複数の項目を指定し、AND、OR、NOTの条件で掛け合わせた検索ができること。		
2	★ 該当件数が指定件数以下の場合、自動的に検索結果一覧を表示できること。また、該当1件の場合は、自動的に詳細画面を表示できること。		
3	★ 資料・利用者検索の結果一覧を1ページに表示する明細数は、10件、20件、50件など複数の件数から選択できること。		
4	★ 検索結果一覧表示は、並び替えできること。また、昇順・降順の指定ができること。		
5	★ 検索結果一覧表示から任意の資料詳細画面に入り、戻る操作で検索結果一覧表示に戻る際、任意の資料の位置が画面表示されること。		
6	★ 検索結果をブックリストとしてCSVファイルを作成できること。		
7	★ 検索は、漢字でもカナでも行え、カタカナでもひらがなでも同じ結果が得られること。ジとチ、ズとヅ、ハとワ、ヲとオ、ツとッ、カとガ、ハとバ、キヤとキャ、ヴァとバ、ヴィとビ、ヴェとべ、ヴォとボなどどちらでも検索できること。長音はあってもなくても検索できること(トランジスタとトランジスターなど)。		
8	★ 「J」などの記号はあってもなくても検索できること。		
9	★ 検索は、ニッポンとニホン、旧漢字と新漢字など曖昧な場合も同じ検索が得られること。検索対象キーワードは編集できること。		

10	★	英語の大文字と小文字、全角と半角を意識せずに検索できること。JAPANとJapanがどちらでも検索できること。どちらでも検索できるキーワードの組み合わせは、随時追加できること。		
11		一覧の複数行選択についてはマウスのクリック等で連続選択が可能なこと。		
<b>(3) 登録機能全般(書誌登録・利用者登録)</b>				
1	★	各種登録画面では、必須入力チェックや入力項目の整合性チェックを行い、誤ったデータが登録されないように配慮されていること。		
2		データを削除するような重要な更新をする場合は、操作の確認メッセージを表示し、判断待ちにできること。		
3		コード化されている項目については、プルダウンで選択でき、またコードを直接入力することもできること。		
4		入力エリアは色分けを行い、強調して操作性を向上させること。		
5		多言語に対応できること。日本語、英語のほか、中国語、韓国語、ポルトガル語等の多言語に対応できること。		
6		貸出画面と返却画面などは背景を任意の色に設定でき、誤操作を防止できること。		
7		日付項目は手入力以外にカレンダーを表示した入力もできること。		
8		各種一覧表示(貸出一覧、予約一覧、所蔵一覧、発注一覧、予約者一覧等)の文字色は状態別に変更でき、一目で状態把握ができること。		
9		検索結果一覧の内容を自由に設定できること。検索結果一覧で表示させる項目の種類と長さ、位置を自由に設定でき、横スクロールにより容易に参照できること。		
<b>(4) 利用者登録</b>				
1	★	現行の利用カード番号を引き続き使用できること。		
2	★	新規利用者の登録、既存利用者の登録情報の修正、登録利用者の除籍や削除、利用カード紛失時等の再発行処理を行えること。		
3	★	バーコード、もしくは手入力された利用カード番号を読み込み、該当の利用者が存在する場合は利用者登録画面にその利用者の情報を表示すること。		
4		利用者情報を複写して新規登録できること。		
5	★	利用カード番号の再発行時には、利用者情報や貸出・予約といった利用者関連情報を引き継いで登録できること。		
6		郵便番号、住所コード、住所の入力時に郵便番号データベースから値を参照して登録が可能であること。		
7	★★	利用者項目は、住所、住所コード、校区コード、氏名、氏名ヨミ、生年月日、性別、登録日、登録館、有効期限、利用者区分、電話番号(2つ以上)、メールアドレス(2つ以上)、予約連絡方法、通知メッセージ、貸出状況、延滞状況、登録情報の更新日があること。また、保護者氏名、帰省先、勤務先、それぞれの電話番号といった詳細情報も登録する場所があること。		
8	★	利用者項目の校区コードは、登録住所から自動的に割り当てられ自動的に入力されること。		
9	★	利用者項目は既存の項目(性別、生年月日、住所、電話番号、メールアドレス、パスワード等)のほか、運用後に図書館が項目を追加できるようにユーザ項目として2つ以上用意すること。		
10	★	登録時、ログインパスワードは既定の初期値(利用者の生年月日4ケタ)が自動的に入力されること。		
11	★	新規登録者および登録済み利用者のログインパスワードの有効期限をすべて9999年12月31日にできること。		
12	★	登録時、有効期限は登録日の5年後の日付が自動的に入力されること。また自動入力される期間は変更可能なこと。手入力でも変更できること。		
13	★	利用者項目は入力必須とするかどうかの指定が可能であり、その設定に従って入力チェックがなされること。(氏名、登録日、利用区分を必須とする等)		
14	★	利用者項目は、漢字項目は漢字入力状態に、英数字は英数字入力状態に自動的に入力モードが切り替わること。		
15		削除時には利用者の関連情報が同時に削除されること。ただし、該当の利用者に貸出、予約データがある場合は削除処理に警告をし、削除できないようにチェックすること。		
16	★	紛失した利用カード番号の無効化と同時に新しい利用カード番号の再発行の処理ができること。		
17		再発行した回数をカウントできること。また、その回数を簡単に修正できること。		
18		更新の際に設定される有効期限日の基点は、図書館の運用に合わせて登録日または最終更新処理日を基準にできること。利用者の資格毎に異なる有効期限日数を設定で利用者登録の入力必須項目は、利用者区分(個人と団体等)によって変更できること。		
19				
20	★★	利用者への通知メッセージを追加、修正、削除できること。		
21		利用者への通知メッセージは、表示期限やOPACへの公開有無を設定できること。また、通知メッセージは最初に表示する最優先メッセージを指定できること。		
22		利用者の通知メッセージを貸出や利用者詳細画面に表示できること。		
23	★	通知メッセージは現行のデータを移行できること。メッセージ件数、文字数に制限がないこと。		
24		業務画面や館内OPAC、WebOPAC、携帯OPAC、スマートフォンOPACから、ログインパスワードの変更ができること。		
25		登録の更新を行う際は二重登録チェックが行われ、該当した場合はその旨を表示し、更新の登録ができないようにすること。ただし、強制的な登録ができるようにすること。		
26		入力・修正された利用者情報に対して、データの更新時に「二重登録」のチェックを行えること。		
27		1回の操作で利用者の有効期限が自動的に再計算されて更新されること。		
28		予約連絡用と督促用など複数のメールアドレスを使い分ける利用者に対応するなど、利用者情報として管理する項目を自由に設定することができること		
<b>(5) 利用者検索</b>				
1	★	氏名や電話番号、利用カード番号などの項目で利用者を検索できること。氏名などの表記やヨミがある場合、表記とヨミのどちらでも検索できること。また前方一致、後方一致、中間一致でも検索可能なこと。		
2		入力した検索条件をすべてクリアし、新たな検索条件で利用者検索を行うことができる		
3	★	利用者検索結果一覧には、利用者氏名・氏名ヨミ・利用カード番号・生年月日・電話番号・貸出数・予約数等の情報が表示されること。表示内容は図書館と協議の上変更で利用者詳細表示内容は、利用者登録時の入力項目がすべて表示できること。表示内容は、図書館と協議の上変更できること。		
4	★	利用者の貸出数、延滞数、予約冊数等がわかりやすく表示されること。		
5	★	ログインパスワードはアスタリスク等で表示され、パスワードを変更する場合は初期値のみしか設定できないこと。		
6				
7	★	生年月日、住所、電話番号メールアドレスなどの項目で検索できること。		
8	★	表示されている利用者の登録内容を修正できること。		
9	★	表示されている利用者の貸出中、予約中資料一覧といった利用状況を簡単な操作で表示できること。その画面から簡単な操作で詳細画面を表示でき、予約修正や取消、貸出延長といった処理が可能なこと。		
10		表示されている利用者の画面からその利用者の貸出処理画面に1回の操作で移動できること。		
11	★	表示されている利用者に対して、貸出停止などの利用者状態変更の処理ができること		
12		姓と名を分かちで登録すれば、姓でも名でも検索できること。		
13		氏名や電話番号など以外に図書館が追加した項目(通知メッセージ等)で検索できること		

14	★	貸出中の資料を、資料区分、資料番号・タイトル・巻次・貸出日・返却日・処理館・予約の有無、貸出延長の有無等の項目で一覧表示できること。		
15		貸出中の資料を選択して、1回の操作で詳細画面を表示できること。		
16		予約中の資料を一覧表示でき、1回の操作で予約修正画面へ移り、取置期限の延長、予約内容の修正、予約順位の変更、予約の取消、資料の確保、確保の解除などができること。また、資料の詳細表示画面へ移ることができること。		
17	★★	予約中の資料を、資料区分、タイトル・巻次・受取館・予約日・予約状態・予約順位・確保資料コード・連絡方法・連絡状態・取置期限・予約手段・処理館等を一覧表示できること。また、この項目の順番を変更できること。		
<b>2 資料業務</b>				
<b>(1)目録管理</b>				
1	★	資料検索や、ISBN、MARC番号、雑誌コードなどの指定で目録データを検索し呼び出すことができること。		
2	★	ISBN13桁に対応していること。従来の10桁との混在もでき、どちらでも検索可能なこと。		
3	★	可変長データが扱え、MARC情報を漏れなく登録できること。書誌項目は、TRC/MARC (Tタイプ)に準拠した項目が取り扱えること。		
4	★	TRCの新刊全件MARC、抽出MARC、典拠ファイル及び内容細目ファイル等をToolを使用した一括データ受け取り(データデリバリ)及び、個別一件ごとのMARCのダウンロードにより登録できること。		
5		国立国会図書館のNDLサーチからダウンロードしたJAPAN/MARC21を取り込んで取り扱えること。		
6	★	MARC情報がない場合は、登録画面で新規登録ができること。また、登録済の目録データを呼び出して複写登録ができること。(元データを流用した新規登録)		
7	★	複写登録時には元目録データのMARC番号と書誌番号はクリアされること。		
8	★	MARC情報であるに関わらず、新規の書誌登録があった場合、書誌番号が自動的に割り振られること。		
9	★	目録データは、図書、雑誌、視聴覚資料など資料形態を指定して作成できること。		
10		入力項目の文字種の規則に従って項目の入力チェックが行われること。		
11		タイトルや著者名で、漢字項目に対するヨミ項目は、自動カナ振りができること。		
12	★	目録項目に、必須入力の指定ができ、必須項目が入力されていない場合はメッセージやアラームで通知できること。(書名、資料区分を必須にする等)		
13		書誌登録時に、資料の内容により登録する書誌項目のレベルを指定できること。		
14		目録データを登録する前に、登録の確認メッセージを表示すること。		
15	★	資料番号が既に別の資料に登録されていた時は、メッセージやアラームで警告すること。		
16	★	目録データを削除する時は、所蔵、予約、発注データをチェックし、登録されていない場合のみ削除可能であること。削除する時は、登録されている内容細目も同時に削除で作業表示中の目録データの所蔵冊数、貸出可能数、予約数、発注数、登録日が表示されること。		
17		現在の入力内容を破棄して元の画面に戻るを選択できること。初期画面に戻るときは、入力内容を破棄する旨の確認メッセージを表示し判断待ちとすること。		
19	★	追加、更新、削除した時、すぐに検索へ反映されること。(翌日にならないと反映されないようなシステムではないこと)		
20	★★	同一資料が別書誌データに分断されている状態に対応するため、書誌データを指定した別の書誌データへ統合できること。		
21		目録の項目データが非常に長い場合(抄録など)も全文を確認できること。また、全文を確認しながら登録・修正できること。		
22		著者名、出版者名、件名、タイトル(シリーズ名)は、典拠を参照した入力ができること。		
23		典拠登録画面で、典拠の作成、修正、削除が行えること。典拠は統一形、参照形その他相互参照形リンクも可能なこと。		
24		典拠ファイルのデータ項目は目録データに準拠した形で扱えること。		
25		典拠データを検索して、典拠一覧や典拠の詳細画面を表示できること。典拠の詳細画面では、その典拠に関連する資料(人名典拠が著者と一致するものなど)の一覧が表示できること。		
26		典拠参照して特定した典拠情報は入力画面に複写されること。		
27	★	巻号データを登録する画面には、雑誌のタイトルや出版者などの情報を表示できること。		
28	★	登録済の巻号データを呼び出して複写登録ができること(元データを流用した新規登録)		
29		雑誌目録データの場合は、巻号データ登録画面に移り、巻号が追加できること。		
30	★	巻号を削除する時は、所蔵、予約、発注をチェックし、存在しない場合のみ削除可能であること。		
31	★	登録済の巻号データを呼び出してその巻号の修正が可能であること。		
32		雑誌の巻号は欠号管理ができること。		
33		雑誌の誌名が変更となった場合に、改題の前後の書誌を関連付けて登録できること。資料検索した結果から改題前後を確認できること。		
34	★★	雑誌の巻号登録時に、前巻号の資料を簡単な操作で利用可能に変更できること(最新巻号の利用を制限する機能の解除)。		
35	★	目録データ、雑誌の巻号データには、内容細目を登録できること。		
36		修正中の目録データの所蔵冊数、貸出可能数、予約数、発注数、登録日が表示される		
37		内容一覧から内容を選択することで、その内容の修正が可能であること。		
38		登録されている所蔵を一覧表示し、登録内容を確認することができ、選択することで、修正、削除できること。		
39		所蔵のつけ違いや目録データの泣き別れに対応するため、所蔵データを別の目録データへ付け替えることができること。		
40		関連する目録項目をグループで管理でき、項目の追加や削除はそのグループ単位で行うことができること(タイトルや著者の漢字項目とヨミ項目をグループにできること)。		
41		巻号登録画面の初回起動時は、新規登録を容易にするため、1つ前の巻号情報が複写された状態とすること。		
<b>(3)所蔵管理</b>				
1	★	資料番号の桁数にチェックデジットがチェックされ、エラーがある場合はメッセージやアラームで警告すること。		
2	★	受入または資料番号張り替え時、資料番号が既に登録されていた時は、メッセージやアラームで警告すること。		
3	★	検索時、資料番号が登録されていない場合は、該当なしとしてメッセージやアラームで警告すること。		
4	★★	検索し該当資料の詳細画面で所蔵資料一覧を表示できること。所蔵資料一覧には、資料コード、所蔵館、所蔵場所、請求記号、資料区分、付録注記、持禁区分、資料ステータス、その資料が返却処理された処理日、返却処理した館と場所、貸出中・予約確保中の場合の利用者番号、返却予定日、貸出日、予約配送先、貸出累計合計、年度毎の貸出累計(10年間程度)が表示されること。		
5	★	資料の張替機能として新しい資料番号に変更できること。この時、請求記号や所蔵場所などは変更されないこと。		
6	★	資料の状態を管理でき、図書館が指定した資料状態のものはOPACに公開されないこと		
7	★	持ち出し禁止の管理ができ、貸出ししようとした時にチェックされ、メッセージやアラームで通知されること。		
8	★	資料の削除を行う際に貸出・確保中・予約中など利用者と紐づけられた所蔵を削除できないようにチェックを行うこと。		
9	★★	資料に付録がある場合、付録注記(付録の種類CD、DVD、地図、貸出不可、紛失など)と個数を登録でき、貸出や返却で付録チェックができること。		

10	★	目録データ情報をもとに所蔵の請求記号、図書記号を自動的に与えることができること。手入力も可能で、自動入力より優先されること。		
11	★	自動的に付与する請求記号は、資料区分や分類によって請求記号の桁数指定ができること。(児童書・絵本は小数点以下切り捨て。それ以外の資料は2、3、9類は小数点以下2桁まで。1、4、5、6、7類は小数点以下1桁まで)		
12	★	貸出中資料や予約割り当て中資料は資料番号を変更できないこと。		
13		貸出時や返却時に表示されるメッセージを登録できること。		
14	★★	所蔵館と配架場所や資料状態、資料情報など、いくつかの項目を指定して一度に変更できること。変更処理はバーコードやICタグを読み込むだけで連続して一括処理できること。		
15	★	資料を登録する場合に、統計分類など項目には、初期値を設定することができ、入力作業を軽減できること。		
16	★	資料検索や目録データ番号の指定で、資料の一覧を表示し、選択して修正できること。		
17		予約中の資料を利用可能な状態に変更する時は、割当可能であれば予約に割り当て、予約連絡用レシートができること。		
18	★	別置記号、請求記号を入力する時、設定した文字モード(全角、半角/ひらがな、カタカナ)で入力できること。		
19	★★	新しく受け入れた雑誌の巻号を一定期間貸し出さない管理ができること。また、その期間に予約が入っても予約在架の帳票にも抽出されないこと。		
20	★	基本的に利用できる資料はOPAC公開するが、公開しない設定もできること。		
21	★	登録する時、必須入力チェックができること。		
22		図書の企画展示等で使用する資料の修正前データを保存し、一定期間後に保存した修正前データを使って元の状態へ戻すことができること。		
23		資料の状態(ステータス)、資料区分、場所コード、持禁区分、別置記号等がコード選択ウィンドウから選択して変更できること。またオンライン処理だけでなく、ハンディ端末に読み込んだ資料コードで一括処理できること。		
24		インターネットに公開するためのブックリストを作成する機能があること。		
<b>3 資料検索</b>				
1	★	単独項目による検索として、タイトル、責任表示、出版社、件名、フルテキスト、請求記号、資料番号、発注番号、書誌番号、MARC番号、ISBN(10桁、13桁)等の項目で検索ができること。		
2	★	内容細目や、目次情報、書評情報なども検索対象とできること。		
3	★	検索項目をすべて検索するキーワード検索ができること。		
4	★	図書、雑誌、視聴覚といった資料の種別に関係なく横断的に検索ができること。また種別を指定することで絞り込みもできること。		
5	★	一般書や児童書、郷土資料などの区分や出版年、所蔵する館、配架場所での絞り込み検索もできること。		
6	★	検索値を空白区切りで並べることでAND検索ができること(一般的なサーチエンジンのように)。		
7	★	項目の掛け合わせ条件としてAND、OR、NOT検索ができること。		
8	★	検索項目ごとに中間、前方、後方、完全の指定ができること。		
9	★	所蔵の有無にかかわらず、登録された全目録データを対象とした検索を行うことができること。複合検索用として検索条件を入力する欄を複数持ち、検索条件を複数指定した複合検索ができること。複合検索時にキーワードが空白で分かちされていた場合、個々の項目内でAND検索をすることも可能なこと。それによって所蔵資料(除籍を除く)だけの絞り込みや資料状態での絞り込み検索もできること。		
10		人名、出版者、一般件名の検索項目から典拠を参照した検索ができること。典拠の相互参照検索が可能なこと。		
11		同名異人を区別した典拠検索が可能なこと。また、異名同人の典拠検索が可能なこと。		
12		検索の該当件数は、検索結果画面に表示され、該当結果が多過ぎる場合は、条件を追加して再検索もできること。		
13		検索時に指定した文字数が少ない場合には、完全一致検索に切り替えるか、そのまま検索を続行するかを選択できること。		
14	★★	検索結果一覧は、書名、著者、出版者、分類、出版年などが簡易表示され、簡単な操作でその資料を所蔵しているかどうか、利用可能であるかどうか、所蔵数や貸出可能数、予約数、発注数などの詳細な一覧に変更できること。その一覧表示は資料状態によって文字の色を設定できること。		
15	★	検索結果一覧は、指定した項目の昇順・降順を選択して並び替えができること。		
16	★	検索結果一覧や資料詳細から書誌情報・所蔵・発注・予約の情報が表示でき、それらの修正画面へ移動できること。		
17	★	資料の詳細画面には、その資料の所蔵や予約、発注件数やそれぞれの明細も表示できること。それらの件数は自館分および全館分が表示できること。		
18	★	予約のある資料の所蔵情報で予約者の情報が画面を切り替えることなく確認できること。		
19	★	検索結果を印刷したり、CSV形式で出力したりできること。		
20		検索結果からいくつかの資料を選択し、選択された資料だけを一覧印刷できること。		
21		検索した結果は履歴として残り、再検索をしなくても履歴を選択することで資料一覧が再表示できること。		
22		検索履歴から検索条件を復元できること。復元した検索条件に検索条件の追加・変更を行い、新たに検索できること。		
23		検索履歴は、検索画面を閉じるだけではクリアされないこと。また履歴をクリアしたい時は、操作してクリアできること。		
24		入力した検索条件をクリアして新たな検索条件で資料検索を行うことができること。		
25	★	所蔵レシートが印刷でき、書庫出納で利用できること。選択した資料の情報(資料番号、請求記号、館、場所、状態等)を印刷可能であること。		
26	★	書誌情報のみの簡易なものが印刷可能であること。		
27		所蔵レシートで、所蔵情報は全館分出力できること。		
28		資料のタイトルや著者と内容細目のタイトルや著者で掛け合わせた検索ができること。		
29		検索結果一覧から選択した資料の詳細画面を表示できること。詳細画面には書誌情報を詳しく表示でき、書誌項目単位にタグ+データの形式ですべてのデータも表示できること。		
30		資料の詳細画面で、それぞれの所蔵情報を選択したとき、受入日や状態変更日、最終返却日等が表示されること。		
31		内容細目が一覧表示できること。		
32		検索結果一覧でタイトル、著者、叢書、件名を選択して、一覧画面から関連する検索ができること。関連した検索の結果一覧から元の一覧へ簡単な操作で戻れること。		
33		CDやDVDなどで沢山の内容細目がある時、曲名と作曲者で検索する時に、他の曲の作曲者が間違えて検索されないこと(交響曲1番:ベートヴェンと交響曲2番:ハイドンの場合、交響曲1番 AND ハイドンでは検索されないこと)。		
34		検索履歴の掛け合わせを行い、複数の検索条件を掛けあわせての検索が行えること。また、論理演算記号として「AND」「OR」「NOT」が利用できること。		
35		内容細目のみを対象とした検索ができること。		
36		業務検索結果画面で配架図を表示できること。		
<b>4 収書業務</b>				
1	★★	資料検索により発注する書誌情報を呼びだし、発注先や発注日、発注館、見計らい発注などを指定して発注できること。		
2	★	予算年や予算費目、発注先は、事前に登録した情報を初期値として使用できること。		
3	★	発注時に入力した、受入区分、禁帯出の指定、請求記号等を、受入時に引用して初期表示できること。		

4	★	発注する書誌情報を読み込んだ際、当館の請求記号付与の運用ルールに従い、分類記号や著者記号が初期表示されること。 例) ・著者記号は著者の先頭2文字。濁点を含む。長音は省く。ただし、苗字が1文字しかないデータは名前も含む。 ・分類記号は児童書・絵本は3桁とする。それ以外は基本4桁(2、3、9類のみ5桁)、だが、小数点以下の末尾の桁が0の場合は、0を省く。 ・資料区分が紙芝居の場合、「999」で統一する。 ・英文文学で「933.7」(英米文学の小説)を「933」とする。		
5	★	発注中の冊数や、所蔵冊数、予約件数が確認できること。		
6	★	その館の発注数、全館の発注数が確認できること。		
7	★	発注データを使用して、発注先へ送るためのCSVデータを作成できること。		
8	★	目録データがない時は、目録データを作成後、発注もしくは登録ができること。		
9	★	資料検索や発注番号、ISBN、MARC番号により発注データを読み込んだ後、資料番号を入力し、配架場所や受入日、資料の区分などを指定して受入できること。		
10	★★	受入する時に、所蔵冊数、発注中の冊数、予約数が表示され、簡単な操作で内容も確認できること。		
11	★	受入する時に、予約中の場合、予約されている事がメッセージやアラームで通知され、予約割当が行われ予約連絡用レシートが印刷できること。		
12		発注の事跡自体を消去する「発注無効」と発注の事績は残してキャンセルする「発注取消」を使用できること。		
13	★	発注キャンセル時に、予約中の場合、予約されている事がメッセージやアラームで通知できること。		
14	★	発注先は、事前に登録した発注先を参照して指定できること。		
15	★	発注の取消しができ、取消理由を記録できること。取消した発注は参照でき、取消理由を確認できること。		
16	★	新規作成したICタグ付きバーコードのUID登録データを事前にシステムに取り込むことができること。(SE作業)		
5	蔵書点検			
1	★	ハンディ端末で読み込んで、蔵書点検処理ができること。		
2		オンラインでもハンディ端末でも点検処理ができること。		
3	★	ICタグをオフラインの業務端末で読み込んで、一括で蔵書点検処理ができること。		
4		オンラインでの蔵書点検時、予約本や資料状態が除籍、修理中、紛失等書架状態以外のもの、配架コード違いのものがあればアラーム音とメッセージで知らせること。		
5		蔵書点検を行っている場所の読み込み進捗状況が数値やグラフでわかること。		
6	★	蔵書点検の不明本やエラーデータは、すべて一覧表示され、蔵書点検途中でも何度でも出力可能なこと。そのCSVデータ出力と印刷ができること。		
7	★	蔵書点検時のエラーは、蔵書点検日、エラー内容、点検をおこなった館を条件として指定できること。		
8	★	蔵書点検の結果、状態が「不明」になる資料と除籍の対象になる資料を一覧表示でき、そのCSVデータ出力と印刷ができること。		
9	★	蔵書点検で不明となった場合は蔵書点検不明として資料状態を変更できること。また、変更した際は、不明回数を1回カウントアップすること。		
10	★	蔵書点検後に除籍処理ができること。除籍の条件として、館、資料の区分、不明になった回数の指定ができること。		
6	窓口業務			
	(1)貸出			
1	★	利用者に資料の貸出ができること。個人貸出、団体貸出、特別貸出、相互貸借に対応できること。		
2	★	貸出制限の日数と冊数は利用者の種別と資料の種別により設定できること。同様に貸出を延長する場合の日数や回数も設定できること。		
3	★	貸出画面から返却画面、利用者情報の画面へ1回の操作で切り替えできること。		
4		利用カード番号を読み込んだ時に、正常な読み込みを知らせる音の種類や回数が設定できること。		
5	★	利用カード番号を読み込んだ時に、その利用者への貸出等の状況として、貸出冊数、貸出資料名、延滞冊数、予約割当冊数、予約冊数等が表示されること。またその貸出冊数は図書と視聴覚資料で点数を別にカウントできること。		
6	★	返却予定日は、開館スケジュールにより自動的に設定できること。返却日が閉館日にあたる場合は、次の開館日が返却予定日に自動的に設定されること。		
7	★★	返却予定日は、貸出館毎に貸出期間を一時的に変動させて返却を分散させる設定ができること。		
8	★	利用カード番号を読み込むことにより、利用者区分を判別し返却予定日が自動的に設定されること。その際に返却予定日が閉館日に当たる場合は次の開館日が返却予定日になること。また、指定した日に返却日を変更できること。		
9	★	利用カード番号を読み込んだ際、貸出できる予約資料があった場合、メッセージやアラーム音で知らせ、貸出できる予約資料の一覧が表示できること。		
10		利用者の有効期限がまもなく切れそうな場合はメッセージやアラームで通知すること。		
11	★	有効期限を更新するときは、設定された有効年数が延長されること。		
12	★	利用者に貸出停止状態の長期延滞資料がある場合、メッセージやアラームで通知できること。		
13	★	指定した日数以上の延滞資料がある個人利用者については自動的に貸出停止状態に変更できること。その延滞資料が返却され次第、貸出可能状態に戻る。また、その延滞資料の返却がなくとも職員の手動による貸出可能状態に戻せること。		
14	★	貸出しようとする利用者の予約一覧から、予約の修正画面を表示でき、受取館の変更、取置期限の変更、予約順位の変更、予約の取消、予約確保の解除、連絡状態の変更などができること。		
15	★	利用カード番号を読み込んだ後に、利用者の詳細情報を簡単な操作で表示できること。		
16	★	貸出処理はICタグリーダーでの読み取り、バーコードスキャナでの読み取り、資料番号の手入力いずれからでもできること。		
17	★	ICタグでの読み取りに不具合があった場合はメッセージで通知できること。また簡単な操作でICタグの貸出再処理ができること。		
18	★	読み込んだ資料に付録資料がある場合は、付録資料があることを通知できること。		
19	★★	付録資料を貸出する時、付録の点数、注記も確認できること。		
20		付録も貸出した場合は、付録も貸出されていることを表示できること。		
21		読み込んだ資料に注記があり、貸出時に通知する設定の場合、注記が表示される。資料が貸し出せない状態であった場合(例えば、資料が登録されていなかった場合、除籍や紛失資料だった場合、禁帯出だった場合、雑誌の最新巻号だった場合)は、メッセージ表示できること。		
22	★	資料が雑誌の最新巻号の場合、メッセージやアラームで通知できること。その場合も貸出するか判断を求めると。また、雑誌によっては、最新巻号であっても、指定した日以降であれば、貸出のチェックがされないようにも設定できること。		
23		他の利用者へ貸出中の資料だった場合は、他の利用者の利用者番号と氏名をメッセージで表示し、返却して、今回の利用者へ貸出するかどうか選択できること。		
24		読み込んだ資料の複本に利用者自身の予約がかけられていた場合は、貸出完了前にメッセージを表示し貸出するかどうか選択できること。貸出した場合その予約情報を残すかどうか選択できること。		
25		上記項目で予約を削除した場合、予約取消通知票が出力されること。		
26		貸出画面上で相互貸借で借りている資料であることが分かること。		
27	★	利用カードを忘れた場合は、利用者検索を行い利用者を選択して貸出できること。		
28	★	貸出完了時に貸出レシートが印刷できること。		

30	★	貸出処理が完了したときには、貸出レシートが出力されること。団体利用者については、モノクロプリンタからA4サイズの貸出一覧が印刷できること。		
31	★	貸出レシートに出力する書誌項目、利用者へのメッセージ等は本市の様式に変更できること。		
32	★★	利用者の貸出中資料情報は、貸出館の別なく全館分の表示ができること。項目は、資料番号、タイトル、巻次、予約の有無、返却予定日、貸出館、付録の有無等が表示され		
33	★	貸出中の任意の資料について返却期限日の延長ができること。また、複数冊を一括で延長処理することも可能であること。		
34	★	貸出資料に対して延長処理が行う際に予約が入っていた場合は、その旨のメッセージが表示され、延長を行うか否か選択できること。		
35	★	貸出資料に対して延長処理が行える回数を超えた場合には延長回数超過の旨のメッセージが表示され、延長を行うか否か選択できること。		
36	★	返却期限日の延長の際には、既貸出一覧から選択し、延長可能なこと。		
37	★	貸出した資料を、貸出一覧画面上で賠償手続き中などに状態変更できること。		
38	★	貸出の冊数制限に達した場合は、メッセージやアラームで通知し、貸出をするか判断を求められることができること。		
39		貸出一覧から資料を選択して、その資料に対する注記を入力できること。		
40	★★	ICタグの貸出フラグ処理と返却フラグ処理が貸出処理・返却処理とは切り離して独立してできること。		
41		貸出で同一の読み込んだバーコードを二度読みした場合には、メッセージやアラーム音で通知できること。		
42	★	利用者からの紛失申請時に書誌詳細が記載された久留米市の様式「損害賠償処理伺」をA4サイズで出力できること。その際には弁償対象となった資料を返却処理せずに残し資料状態変更ができること。		
43		所蔵館が市民センター図書室の場合、上記35の「損害賠償処理伺」を市民センター図書室用の様式で出力できること。		
44	★	利用者から弁償資料の提供があった場合には、その利用者の利用状況から切り離して処理できること。		
45		利用カード番号を読み込むことにより、貸出一覧に資料情報を表示できること。また、資料の詳細画面を表示できること。		
46	★	貸出中に次の利用カード番号を読み込んだ場合は貸出処理を完了し、その読み込んだ利用カード番号での新たな貸出処理を行うことができること。		
47		貸出区分ごとに返却予定日が表示されること。また一時的に返却予定日の変更を行うことができ、その利用者の完了まで変更されたままであること。		
48		利用者に対するコメント(忘れ物の連絡など)の設定および消去が容易に行えること。コメントは、貸出時と利用者詳細画面で確認できること。		
49		利用者に対するコメントについては定型文から選択することができること。定型文を選択し、さらに加筆修正できること。		
50		利用者に対するコメントについて、利用者がOPACから確認できること。確認できないように設定することも可能であること。コメントについては複数登録でき、コメント毎にOPACへの公開/非公開の設定が可能であること。利用者から既読かどうかの設定ができること。既読の場合、職員がその旨および既読となった日時を確認できること。		
51	★	貸出画面から返却画面、資料検索、利用者検索への切替はファンクションキー操作および一回のマウス操作で可能なこと。		
52		通常の貸出モードに加えて、館内で一時的に利用するための閲覧モードを用意すること。		
53		返却された資料について、直前の貸出情報を元に復元できる機能を持つこと。		
<b>(2)返却</b>				
1	★	返却処理から貸出画面、資料検索、利用者検索の画面へは1回の操作で切り替えできること。		
2	★	返却処理は資料番号のICタグリーダー、バーコードスキャナでの読み取り、手入力いづれからでもできること。		
3	★	ICタグでの読み取りに不具合があった場合はメッセージで通知できること。		
4	★	資料番号を読み込んだ際に登録されていない場合は未登録であることをメッセージで通知すること。		
5		返却処理された所蔵資料は、所蔵情報にその処理日と処理館・処理場所が表示されること。書架状態になっている資料を同処理館・別処理場所で返却処理した場合は、その処理をした日付・処理館・処理場所が表示されること。		
6	★	利用カード番号を入力した場合は、自動的に貸出画面に移って、貸出する資料のバーコード入力待ちとなること。		
7	★	貸出中資料について、返却期限日の延長ができること。その際に延長の回数の指定ができ、それを超えた場合には延長できないようにすること。また、予約の有無を確認し、予約があった場合には表示して延長ができないようにすること。ただし、強制的な延長は可能であること。一括での延長処理も可能であること。		
8	★★	返却された資料は一覧表示され、他画面へ移った後も保持し、返却へ戻ると履歴を表示できること。また、履歴を任意にクリアできること。		
9	★★	資料番号を読み込むことにより返却処理画面に一覧情報として資料番号、タイトル、付録の有無、予約の有無、予約受取館、返却者の残りの貸出冊数、返却予定日、持禁区分、所蔵館、所蔵場所、貸出累計等の情報が表示されること。		
10		資料番号を読み込むことにより、借りていた利用者の情報として貸出できる予約冊数が表示されること。(返却時に利用者に予約確保資料があった場合に確実に提供したい)		
11	★	返却の一覧表示から、返却者の利用者情報詳細画面を1回の操作で表示できること。またその表示画面から貸出・予約状況一覧表示や貸出延長処理ができること。		
12	★	返却一覧から資料の詳細を1回の操作で表示できること。		
13	★	返却資料に予約がかかっていた場合は、最も優先順位の高い予約者の情報を表示し、予約の確保を行うか中断するか選べること。また確保した場合は予約連絡用レシートを印刷できること。ただし、予約入力時に所蔵館や資料番号で指定されている場合は、該当資料以外は確保しないこと。予約連絡用レシートは現行の久留米市仕様項目を満たしていること(レシート出力場所、出力日時、受取館、利用者番号、利用者番号バーコード、利用者名、予約方法、連絡方法、資料番号、書名、予約日、予約待ち人数、コメントなど)		
14	★	返却された資料が予約されている資料の場合、自動的に受取館への回送処理が行われ、予約回送レシートが印刷できること。予約回送レシートは現行の久留米市仕様項目を満たしていること(レシート出力場所、出力日時、受取館、利用者番号、利用者番号バーコード、利用者名、予約方法、連絡方法、資料番号、書名、予約日、予約待ち人数、コメントなど)		
15	★	所蔵の移動管理として配送(回送)受付処理が可能であること。その際、資料番号を読み込むことにより簡易に処理可能であること。		
16		返却を行った資料に通知メッセージがある場合はその旨を表示できるとともに、削除するかどうかを選択できること。		
17	★★	団体貸出資料が窓口で返却された場合は、返却処理を継続するか否かを選択できること。		
18		返却した資料に付録が登録されていた場合は、付録資料の返却についても確認できること。付録の点数、注記も確認できること。		
19		返却した資料が相互貸借で借りた資料の場合は、メッセージやアラームで通知できること。		
<b>(3)予約</b>				
1	★	資料検索と連動して利用カード番号を使用した予約処理ができること。		
2	★	予約件数は、利用者区分と資料の種別で制限できること。		
3	★	基本的には目録データ全体に予約され、複本すべてが予約対象となること。ただし、所蔵する館による指定や特定のバーコードの資料だけの予約も可能であること。		

4	★	予約の冊数制限に達した場合は、メッセージやアラーム音で通知し、予約できないようにすること。ただし強制的な予約は可能であること。		
5	★★	資料検索結果の予約入力画面で利用者の予約冊数が表示されること。		
6	★	利用者及び資料の詳細画面を1回の操作で表示できること。		
7	★	雑誌の最新巻号だった場合は、予約入力は可能だがバックナンバーになるまで予約確保対象外にできること。		
8	★	予約時に利用者が同じ資料に既に予約をかけている場合は、その旨を表示し予約処理をできないようにすること。ただし強制的な予約は可能であること。		
9		予約時に利用者が同じ資料を既に貸出中の場合は、その旨を表示し予約処理をできないようにすること。ただし強制的な予約は可能であること。		
10	★	予約を登録する時に、予約日時、受取館、連絡方法、連絡先、コメントが登録可能であること。		
11	★	予約資料の予約日、受取期限、受取館や連絡方法などの修正が行えること。複数の予約を一括して修正することもできること。		
12	★	予約を1件ずつ取り消しできること。また一括でも取り消しできること。		
13	★	資料を確保済の予約を取り消した場合、自動的に次の優先順位の利用者に割り当てられること。		
14		資料検索と連携して、複数の資料に一括して予約できること。		
15	★	資料を所蔵していない(未所蔵、除籍、紛失状態)書誌に対して予約入力しようとすると、予約できない旨をポップ等で警告すること。ただし職員による強制的な予約は可能であること。		
16	★★	利用者の予約情報の一覧には、タイトル、巻次、受取館、受付日、予約状態、所蔵数、その資料の予約順位)、確保した資料番号、確保した資料への予約の有無、連絡方法、取置期限を表示すること。取置期限が過ぎていた場合は赤字等で分かりやすく表示できること。		
17	★	予約資料が貸出可能になった場合、利用者へ電話やe-mail送信による予約連絡が行え、その履歴管理ができること。予約の状況を画面で確認しながら連絡し、履歴の参照・登録が一括で行えること。		
18	★	予約確保の取置期限が切れた資料は、予約の取消ができること。次の予約者がある場合は、その利用者に対して、予約が割当られ、予約連絡票を自動的に出力できること。予約の取消は取消理由を選択して取消できること。取消理由によって利用者の予約情報一覧に取り消した事績を一定期間残すか、残さず削除するか設定できること。また、残すにした予約は後から削除もできること。		
19	★★	一定期間残すにした取消情報は、OPACから利用者が確認できること。この際、取り消した予約は利用者の予約件数にカウントされないこと。(有効な予約のみカウントされる)		
20		予約資料が他館に在架している場合、資料の回送依頼ができること。複本を複数館所蔵している場合もあるため回送依頼の順番を設定できること。		
21	★	予約回送依頼を受けた資料が在架している場合は、予約確保を行い、依頼館へ回送できること。在架していない場合は、上記21で設定した順番の次の館へ依頼を回送できること。また、館を指定した回送もできること。		
22	★★	予約連絡メールを予約受取可能状態になった処理日を指定して送信できること。		
23	★	長期延滞、不明等の状態区分によっては、OPACでは予約対象外とし、表示しないように設定できること。		
24	★	予約受付順位は受付時間を基準に自動で設定されること。また、予約処理後に変更することも可能であること。		
25	★	予約連絡を行った日時や内容などを記録できること。		
26	★			
<b>(4)相互貸借</b>				
1	★	相互貸借資料の管理ができること。相互貸借書誌を新規作成して予約の登録ができること。また、新刊マーク等で登録した既存書誌を複写して相互貸借資料を登録し管理もできること。		
2	★	相互貸借資料は貸出館のバーコードをそのまま登録することができ、バーコードの種別や桁数などが異なっても利用できること。貸出や返却では、貸出館のバーコードを使用して処理できること。自館とまったく同じバーコードだった場合には書名などを表示する選択ウィンドウが表示され、選択した資料が処理されること。		
3	★	借受した資料の所蔵登録・削除ができること。相互貸借登録時に予約の登録や予約の割当ができること。		
4		相互貸借の依頼情報や過去の貸借履歴を参照できること。		
5		相互貸借の依頼情報を入力し、その内容を相互貸借依頼票として印刷できること。		
6	★	貸借館の情報を登録しておき、相互貸借資料の登録時に参照し選択することで、入力の軽減ができること。		
7		相互貸借資料の登録時に、相互貸借資料に対して付録情報などを登録できること。		
8	★	期間を任意に設定して、借用履歴(資料名・借用相手館・貸出(あるいは予約)窓口)一覧をCSVデータなどで出すことができる。あるいは、貸出窓口(予約窓口)別に借用履歴を出すことができること。		
9		借用相手館への返還期限を過ぎた借用中資料の一覧をCSVデータなどで出すことができること。		
10		借用相手館別、あるいは借用相手に区分(県立図書館、福岡市立図書館、その他県内、県外等)を指定し、指定した区分別に借用履歴をCSVデータなどで出力できること。		
11		資料のバーコードにより、貸借資料の貸出館への返却ができること。貸出館への返却処理時に、同時に利用者の返却もできること。		
<b>(5)Web-OPACからの未所蔵資料リクエスト</b>				
1	★★	Web-OPACから未所蔵資料のリクエスト受付ができること。受付画面には必須項目があり、その入力があるもののみ受付できること。未所蔵資料のみの受付件数が制限でき、通常予約の件数と分けることができること。		
2	★★	Web-OPACからの未所蔵資料のリクエストは、受付後に新規発注、所蔵資料または発注中資料への予約付替え、相互貸借への変更、取消といった処理ができること。		
3	★	検索結果が0件だった場合、未所蔵リクエスト画面へスムーズに移動できるリンク等を表示でき、そこから未所蔵リクエストへの画面に移動できること。		
4	★	未所蔵リクエストは専用受付フォームで受付ができること。利用者番号、氏名、連絡先等を入力必須項目にできること。また、資料名、著者名、ISBN以外に、利用者がコメントを入力できる項目を設定できること。		
<b>(6)督促管理</b>				
1	★	督促を行った場合は、電話・ハガキ発送等の督促状況を管理し、返却までの履歴を記録・確認できること。		
2	★	督促メールを返却日を指定して抽出し発信できること。		
3		長期延滞資料を一括して除籍できること。		
4	★	指定した延滞日数を超過した長期延滞利用者に対し、自動的に貸出停止状態に変更できること。貸出停止状態ではOPACからの予約受付不可等の利用制限ができること。		
5	★	督促を行わない利用者は督促を除外する設定が可能であること。また督促一覧に表示させない設定ができること。		
6	★	返却日より一定期間返却されない所蔵資料はOPACので所蔵情報が非表示にできること。		
<b>7 メール連携</b>				
1	★	利用者への連絡用として、予約の確保、予約の取り消し、利用者情報の変更、貸出資料の督促、図書館からのお知らせ等についてメールで発信できること。		
2	★★	メール内容(文言)はメールの種別ごとに容易に修正できること。		
3	★	メール送信を行った結果を管理し、送信の成功、失敗を問わず送信の印刷ができること。		
4	★	メールは操作による発信も、時刻指定での発信もできること。		
5	★★	メール送信エラーの発生と送信先、そのメール内容が容易に確認できること。		
6	★	メール本文の文字コードはSJIS、UTF-8から選択できること。		

7	★★	利用者自身で返却期限日から指定した日数前にメールで返却期限をお知らせの設定ができること。また、配信の一時的な停止も設定できること。		
8		自動メール送信(SDI、返却期限お知らせメールなど)の送信可否、送信時間などを職員が容易に変更できること。		
9		メール送信前にどのような文言で送信されるか確認できるプレビュー機能があること。		
10		メールサーバ認証(SMTP AUTH方式)に対応できること。		
8 OPAC				
(1)OPAC共通				
1		OPACの資料状態や配架場所を利用者が理解しやすい言葉に変更可能なこと。(閉架→書庫など)		
2		検索画面は日本語一般用だけでなく子ども版、英語版の選択が可能なこと。		
3	★	資料を検索し所蔵のある資料に予約ができること。		
4	★	予約をする時に、受取館、連絡方法が登録できること。その際、内容に矛盾がないようにチェックされること(例:視聴覚資料の貸出ができない館を受取場所に登録する等)。		
5	★	検索項目は、タイトル、責任表示、出版社、出版年、件名、分類番号、キーワード等複数あり、複数項目での検索や演算検索にも対応していること。		
6	★	所蔵館で絞り込みができること。		
7	★	検索の結果一覧に貸出の可否や在架の有無が表示されること。また、非表示にもできること。		
8	★	逐次刊行物に登録された発行年月日号一覧が表示できること。未所蔵の巻号は表示しないこと。		
9	★	不明紛失や長期延滞中や修理中の資料等、資料状態によって利用者に公開・非公開を選択できること。		
10	★	貸出が多い資料を資料の区分(一般書、児童書、視聴覚)ごとに表示できること。		
11	★	予約が多い資料を表示できること。		
12	★	カレンダーで休館日の表示ができること。		
13	★	利用者番号ID、パスワードによる認証機能を有していること。		
14	★	利用者がログインする際、暗号化されること。		
15	★	予約の受取館に移動図書館を選択した場合、そこから受け取りたいステーションも選択できること。		
16	★	予約冊数の制限を図書やAV資料など資料の種別ごとにチェックができること。		
17	★	利用者本人が貸出中の資料、予約中の資料を確認することができ、取り置きされていない予約のみ修正、取り消しができること。ただし、窓口で受け付けた予約(相互貸借も含む)の取消や修正はできないこと。		
18	★	ログイン後、貸出延長ができること。ただし、貸出延長は図書館が設定した制限が適用され、延長できない資料を利用者が延長しようとした場合、わかりやすい案内が可能なこと。		
19	★	利用者本人がパスワードやメールアドレスを変更できること。		
20	★	利用者本人が、連絡方法を設定し、予約時に初期表示できること。		
21	★	利用者本人が予約中の資料、貸出中の資料は予約できないこと。		
22	★	新着資料を一覧表示できること。受入期間が指定でき、一般書、児童書など資料の区分ごとに表示できること。その際、新着一覧に表示したくない資料については、所蔵情報や発注情報でその指示ができること。		
23		特定のテーマに沿った資料の一覧が表示できること。		
24		利用者本人がログイン時、通知メッセージを表示できること。		
25	★	利用者の申請により貸出履歴の保存ができること。現行システムのデータも引継ぎできること。		
26		SDI(Selective Dissemination of Information:特定分野新刊図書速報サービス)はメールアドレスを登録することにより利用することができ、利用者が登録したメールアドレスとパスワードにより新着図書情報提供のための条件を利用者自身で設定できること。また新着図書情報提供の一時的な停止を利用者自身で設定できること。		
27		SDI(Selective Dissemination of Information:特定分野新刊図書速報サービス)は図書館が指定する日(曜日)、時刻に自動的に発信できること。また新着図書情報提供件数は最大100件以上表示することができ、新着図書情報提供のメールのヘッダ、フッタは図書館で容易に変更できること。		
28		各画面に表示される文言の修正・追加ができること。		
29		メールアドレスが追加・変更された際、その旨を通知するメールを送信できること。		
30	★	検索結果一覧、資料の詳細画面に本の表紙画像(書影)を表示できること。書影の画像取得先については、Google Booksなどから利用できること。また、自館で作成した画像についても表示できること。		
(2)館内OPAC				
1	★	タッチパネルによる操作が可能なこと。画面上のボタンの大きさなどがタッチパネル操作を想定して設計されていること。		
2		タッチパネルを使用し漢字変換した検索が可能であること。		
3	★	タッチパネルとキーボード・マウスの併用も可能であること。ただし児童室設置のキオスク端末はタッチパネル操作のみとする。		
4	★	ガイドランスは、一般用(漢字)、子ども用(ひらがな)、英語があること。		
5	★	未所蔵資料情報(図書館システムにDLしたTRC-MARCで所蔵がないものや除籍して未所蔵になった資料の書誌)も検索できること。		
6	★	所蔵・未所蔵は検索結果一覧画面でわかりやすく表示されていること。		
7	★★	未所蔵資料情報も含めた「全て」と市内いずれかの館に所蔵がある「全館」、端末設置館所蔵のみの「自館」を選択して検索できること。		
8	★	検索した資料情報をシート印刷できること。		
9	★	ログイン後、貸出・予約状況の確認ができること。		
10	★	一定時間操作がない場合、自動ログオフ、初期画面に戻る。その時間は一括で設定できること。		
11	★	高齢者や障がい者に配慮したユニバーサルデザインであること。		
12	★	利用者自身が資料を登録したブックリストを表示できること。		
(3)WebOPAC				
1	★	パソコンのブラウザで利用でき、特別なアプリケーションのインストールが不要なこと。		
2	★	想定できるトラブルに対して暗号化などセキュリティが万全に取られており、安全な運用が可能なこと。		
3	★	OPACのDBメンテナンスは利用の支障が最低限になるよう設定すること。		
4	★	検索結果は所蔵している資料のみ表示すること。		
5	★	ログイン後、貸出中の資料、予約中の資料を確認できること。		
6		予約かご方式で予約できること。予約かごの情報は予約処理を行うまで保持(ログアウト時には削除されない)され、お気に入り登録に活用できること。予約かごの中に入れた複数の資料に対して予約資料の選択を行い、その資料に一度の操作で予約が可能であること。予約かごには200件以上登録が可能であること。		
7		検索時にキーワードの一部が入力されると、登録されているデータからキーワード候補を見つけて表示し、選択すると検索できること(キーワード・サジェスト)。		
8		検索結果一覧を著者や分類などでグループ化し、グループを選択することで、絞り込み検索ができること(ファセット・ブラウジング)。		
9		選択した資料と関連して、よく見られている資料を表示できること(この資料を見た人は、こんな資料も見えています)(レコメンド)。貸出回数が少ない本は表示しないよう、閾値を設定できること。		



10		検索した結果や貸出中の資料などを利用者自身がグループ化して登録したブックリスト(仮想本棚)を作成できること。仮想本棚の数は20棚、1棚毎に200冊以上登録できること。ブックリストから選択して予約することができること。その選択は一度で複数冊まと	
11	★	利用者が作成している現行のブックリスト(仮想本棚)のデータを移行できること。	
12	★	貸出履歴を保存している利用者が、自身の貸出履歴一覧をダウンロードできること。	
13	★	返却期限お知らせやSDIなどのメールサービスの配信希望を利用者本人が設定できること。ただし、督促メールは配信希望の有無なく送信できること。	
14	★	SQLインジェクション、クロスサイト・スクリプティング、クロスサイト・リクエスト・フォーgeries、クローラに十分な耐性があり、パスワードロック機能があること。	
15	★	視覚障がい者のアクセシビリティに配慮していること。スクリーンリーダーや音声ブラウザでスムーズに読み上げられること。	
16		資料の情報の資料番号にて単独の検索ができること。	
17	★	書誌情報のISBN等にて単独の検索ができること。	
18	★	久留米市立図書館HPのトップページにキーワードのみで検索できる検索ボックスを作成できること。ここではタイトル、著者名、出版社、ISBNなど単独での検索キーが使用でき、スペースをandととること。	
<b>(4)スマートフォンOPAC・携帯OPAC</b>			
1	★	スマートフォンやタブレットはAndroid、iOSとも利用でき、特別なアプリケーションのインストールが不要なこと。	
3	★	スマートフォンを利用カードの代用にできるようにバーコード表示ができること。	
4	★	スマートフォンのOPACもWebOPACと同等の機能があること。	
5	★	携帯電話用OPACは国内の主要なキャリアに対応していること。	
6	★	携帯電話用OPACは携帯電話で表示するため、表示内容や機能はWebOPACより限定し、操作性を優先すること。	
<b>9 帳票</b>			
1	★	全ての統計において、館(セクション)の選択及び対象期間(年月日)を指定したの帳票が作成できること。	
2		日別、月別、年別の帳票が作成できること。	
3	★	各帳票は、その帳票に応じたソート条件を選択できること。	
4	★	帳票はEXCELなどで作成、修正・保存できること。	
5	★	帳票はCSVデータとして出力できること。CSVデータの内容は帳票の種類によって変更できること。	
6		出力項目・条件に貸出、予約、資料、利用者等の統計項目を設定し、統計帳票を作成できること。また、作成した帳票の形式を保存して簡便に再利用でき、保存した内容は、作成者、作成館など公開範囲を限定できること。	
7		帳票はできるだけトナーを使用しないフォーマットであること。(行違いを表す網掛け等は不要)	
8	★	ページ下部中央にページ番号/ページ総数でページ付けされていること。ただし要覧や月報、1枚で完結する帳票については不要。	
9		印刷した帳票のいずれかの場所に出力年月日が記載されること。	
10	★	別紙2、別紙3の帳票が作成できること。	
11	★	督促はがきは、現在使用している圧着はがきを継続して使用できること。	
12	★	督促はがきを一括して出力した際、督促履歴の回数と最終督促日を更新できること。また、更新しないようにもできること。	
13	★	登録者数の統計で、期間を指定した未利用者を除く帳票が作成できること。	
14	★	貸出者数統計で、貸出延長は貸出館での貸出としてカウントできること。	
15	★	予約統計で、Web-OPAC、館内OPAC、Web-OPACの未所蔵リクエスト、携帯電話OPACでの受付、各館窓口受付など受付場所別の帳票が作成できること。	
16	★	予約統計で、受取館(セクション)別の予約者数、予約冊数帳票が作成できること。	
17		視聴覚(AV)統計で、媒体別(CD、DVDなど)の所蔵統計が作成できること。	
18		視聴覚(AV)統計で、媒体別(CD、DVDなど)の貸出件数統計が作成できること。	
19		視聴覚(AV)統計で、媒体別(CD、DVDなど)の貸出者数統計が作成できること。	
20	★	移動図書館の貸出人数、貸出冊数、予約処理件数の統計帳票は、ステーション別及び移動図書館全体を選択して集計できること。	
21	★	移動図書館のオフライン処理時のエラーリスト(貸出超過、利用者状態不正等)を出力できること。ソート条件として利用者番号を使用できること。	
22		図書館別の開館日数(月別)が出力できること。	
23		BDSでカウントした来館者数の帳票が出力できること。	
24	★	次のレシートが作成できること。 貸出レシート、予約連絡用レシート、予約配送レシート、資料所蔵レシート、書誌情報レシート、予約取消レシート	
25	★	統計データは年度を越えて蓄積できること。	
26		各種情報をデコード化できること。	
27		貸出情報を特定処理日および特定時間帯で絞り込み出力できること。ただし返却された時点で抽出されないこと。	
28		雑誌タイトル毎の貸出回数の一覧表を作成できること。(雑誌スポンサーへの提供資料)	
29		予約在架資料一覧は、1件の予約につき1冊の資料が割当てられること。たとえば同じ資料を開架と閉架に1冊ずつ所蔵していた場合は、開架の資料のみ抽出されること。	
<b>10 レファレンス管理</b>			
1	★	レファレンス事例として、質問文、回答文、関連キーワード、分類、受付日、回答日、調査種別、内容種別、ジャンル、回答状態等を登録できること。この項目で検索できること。	
2	★	質問文、回答文は自由記述で登録できること。登録後に修正もできること。	
3		事例詳細画面では質問に対する回答、参考文献の一覧が確認でき、同時に質問者の情報が表示できること。質問者が図書カード登録者の場合はその情報とリンクできること。	
4		事例詳細画面から質問内容や回答内容を印刷できること。	
5		事例詳細画面に参考文献を入力する際、書誌情報入力の軽減のため、資料検索機能からも参照し選択できること。また未登録資料の書誌データも選択できること。	
6		キーワードでの検索を行う際は登録済みのキーワードを参照できること。	
7		事例検索結果一覧はソートができること。ソート項目は協議の上設定変更可能であること。	
8		事例検索結果一覧の内容をすべて、または、選択した行を印刷できること。	
9		事例検索結果一覧から国立国会図書館へ送付するデータを抽出することができること。検索結果のすべて、または、選択した行を抽出できること。	
10		回答時に状態を設定することができること。これにより、OPACの事例検索として公開するか否かを制御できること。	
11	★★	レファレンスを図書館HPから受け付け、図書館システムで直接受信できること。	
12	★	レファレンスの回答を質問者にメールで送信できること。	
<b>11 移動図書館業務(オフライン版)</b>			
1	★	ハンディ端末で、貸出、返却、団体貸出、団体返却、蔵書点検、除籍処理、移管、配架コード変更、ハンディ端末の環境設定(日付、処理館、処理場所等)が行えること。	
2	★	上記項目1で読み込んだデータ(日付、処理館、処理場所等も含む)を図書館システムにダウンロードして反映できること。	

3	★	ハンディ端末内に読み込んだり、取り込んだデータのファイル消去ができること。その際、全ファイル消去か、指定ファイル(貸出データ、返却データ、蔵点データ)消去か選		
4	★	貸出の際、返却日を設定できること。		
5	★	ハンディ端末の初期値設定で、館コード、移動図書館ステーションを設定、変更できる		
6	★	ハンディ端末は、利用カード、資料バーコードの読み取りが確実に行われたことがアラーム音や振動で認識できること。		
7	★	ハンディ端末は、事前に予約資料情報を取り込むことで、予約資料の返却を読み込んだ際のチェックをアラーム音や振動、メッセージで通知できること。		
8	★	ハンディ端末は、事前に無効利用者を取り込むことで、貸出で無効利用者を読み込んだ際のチェックをアラーム音や振動、メッセージで通知できること。		
9		ハンディ端末は、事前に利用者登録情報と貸出状況を取り込むことで、貸出冊数上限を超えた貸出を行わないようにできること。そのことをアラーム音や振動、メッセージで通知できること。		
10		ハンディ端末は、事前に利用者登録情報と貸出状況を取り込むことで、延滞や督促の貸出本があることをチェックできること。そのことをアラーム音や振動、メッセージで通知		
11		ハンディ端末は、事前に利用者登録情報と貸出状況を取り込むことで、旧利用カードや除籍や貸出停止になった利用カードを読み込んだ際に貸出を行わないようにできること。そのことアラーム音や振動、メッセージで通知できること。		
12		ハンディ端末を利用したオフラインのみでの処理を行う場合は、登録利用者データを取り込んだ利用者検索が可能なノートPC等を補助的に配置し、利用カード忘れ利用者番号照合もできること。		
13		移動図書館端末を起動した際、巡回先と返却予定日を設定できること。		
14		巡回先からちがう巡回先に移動する際、再起動や再ログインが不要なく巡回先の変更ができること。		
<b>12 移動図書館業務(オンライン版)</b>				
1	★	移動図書館の端末とサーバはSSL-VPNで接続すること。		
2	★	持ち出し端末上にはデータを持たず、モバイルネットワークにてオンラインで図書館業務を運用できること。		
3	★	貸出処理はバーコードスキャナでの読み取り、キーボードテンキーからの手入力いずれからでもできること。(貸出レシート印刷は不要)		
4	★	持ち出した場所で館内端末と同様の機能が使用できること。		
5	★	移動図書館の統計帳票は、ステーション別及び移動図書館全体を選択して集計できること。		
6		貸出冊数、貸出冊数、予約処理件数 移動図書館用端末は、図書館や図書室で通常の業務用端末としても使用できること。		
<b>13 利用者用インターネット端末</b>				
1	★	利用者の有害サイトへのアクセス制限ができること。ただしフィルタソフト等で有害と判断されても図書館でアクセス許可したサイトは閲覧できること。		
2	★	ネットショッピング等金銭の絡んだ利用ができない設定にできること。		
3	★	メールや掲示板への書き込み制限ができること。		
4	★	ログインから30分後に自動でログオフか利用延長の選択ができること。		
5	★	ログインから30分後に利用延長をする場合、パスワードを入力しないと延長ができないログインから30分後に使用できないように画面を表示する場合、利用者へのメッセージ等が表示できること。		
6	★	ログオフ後自動で環境復元ができること(設定の変更やログイン中ダウンロードされたプログラム等のリセット)		
7	★	利用者からパソコンの設定が見えたり変更できたりしない状態にできること。		
8	★	USB等で外部メモリが使用できない設定にすること。		
9	★	使用する利用者がストレスを感じない処理速度であること。		
10	★	利用者持ち込みのイヤホン・ヘッドホンがイヤホンジャックから使用できること。		
<b>14 利用者用データベース端末</b>				
1	★	利用者の有害サイトへのアクセス制限ができること。ただしフィルタソフト等で有害と判断されても図書館でアクセス許可したサイトは閲覧できること。		
2	★	ネットショッピング等金銭の絡んだ利用ができない設定にできること。		
3	★	メールや掲示板への書き込み制限ができること。		
4	★	ログインから30分後に自動でログオフか利用延長の選択ができること。		
5	★	ログインから30分後に利用延長をする場合、パスワードを入力しないと延長ができないログインから30分後に使用できないように画面を表示する場合、利用者へのメッセージ等が表示できること。		
6	★	ログオフ後自動で環境復元ができること(設定の変更やログイン中ダウンロードされたプログラム等のリセット)		
7	★	利用者からパソコンの設定が見えたり変更できたりしない状態にできること。		
8	★	業務用ページプリンタに印刷ができること。		
9	★	USB等で外部メモリが使用できない設定にすること。		
10	★	利用者持ち込みのイヤホン・ヘッドホンがイヤホンジャックから使用できること。		
11	★	西日本新聞週及版DVDの閲覧ができること。		
12	★	図書館が契約している商用データベースに図書館のIDでログインできること。		
13	★	使用する利用者がストレスを感じない処理速度であること。		
14				
<b>15 自動貸出機</b>				
1	★	利用者が使いやすいインターフェイスであること。		
2	★	ICタグを使用して、自動貸出機での貸出に対応できること。		
3	★	自動貸出機を設置可能なこと。タッチパネル式、のぞき見防止フィルター、利用カードバーコードスキャナ機器、ICリーダー、レシートプリンターを設置のこと。		
4	★★	利用者の状態が貸出停止、除籍、有効期限切れ、または利用状況で延滞あり、予約受取待ち資料あり、通知メッセージありの場合は「窓口へお越しください」等のポップアップを出して貸出処理に進まないこと。		
5	★	貸出冊数が上限を超える場合は、ポップアップ等でわかりやすく表示し貸出処理に進まないこと。		
6	★	禁帯資料や雑誌最新号は、ポップアップ等でわかりやすく表示し貸出処理に進まないこと		
7		予約確保済みで予約配送中の資料があるにもかかわらず、本人が複本を書架から引き抜き、手続きをしようとする際、ポップアップ等でわかりやすく表示し貸出処理に進まないこと		
<b>16 BDSゲート</b>				
1	★	BDSゲート監視システム専用PCをBDSゲート設置場所3か所に設置すること。		
2	★	図書館システムでの貸出およびICタグの貸出フラグがともに未処理の資料がゲートを通過するとアラームが鳴り、監視システムPC画面上にその貸出未処理の該当資料情報ICタグの貸出フラグが未処理であるが図書館システムでの貸出処理は済みである資料がゲートを通過するとアラームが鳴り、監視システムPC画面上に該当資料情報が表示されること。上記3の貸出未処理の資料と文字色もしくは表示等でわかりやすく分別されていること		
3	★	監視システムが感知したICタグフラグ未処理資料の通過データのログが自動的に保存されること。		
4	★	監視システムが感知したICタグフラグ未処理資料の通過データのログが自動的に保存されること。		
5	★★	BDSゲート監視システムは、入館者数カウントも可能なこと。		